

堀川同窓会報

HORIKAWA ALUMNI ASSOCIATION JOURNAL

第2号・100周年を終えて

HORIKAWA

祝 辞

堀川高校の創立100周年を心より祝い申し上げます。

平成20年春、堀川高校100周年記念式典・コンサートでは、皆様の母校に対する深い愛情と、堀川高校の長い歴史、伝統の奥深さを皆様と共有させていただきました。

市民の皆様から京都の公立高校に対する期待が高まる中、堀川高校はパイロット校として21世紀の社会を担う人材育成に向けた改革を推進し、全国から高い評価を受けておりますことは、「教育の先進都市・京都」の面目躍如たるものがあり、教育委員会と致しましても大変心強く感じております。これもひとえに、同窓会の皆様や100年にも及ぶ歴史を有する堀川高校の保護者の方々の御理解と温かい御支援の下、学校長を中心とする教職員の熱意溢れる教育実践と生徒たちの頑張りが実を結んだものであり、深甚なる敬意を表します。

結びに、堀川高校が100周年を契機とされ、京都の公立高校はもとより、日本の高校教育の先駆けとしてますます発展されますこと、並びに同窓会の皆様の御多幸と御活躍を祈念致します。



京都市教育委員会 教育長
高桑 三男
(高19回卒)

101年の足跡

2008年は、源氏物語一千年紀ということで、京都は大勢の観光客を迎えました。京都は、都のあったところで、千年を超える祭やしきたりが今尚、引きつがれています。

私も昨年7月7日、北海道、G8サミットで各国首脳の奥様方に、書道の実演や、十二単の着衣など源氏物語をなぞりながら、日本の文化を紹介しました。さて、2009年は、どんな年になるのでしょうか。

今こそ、心の教育を問われる時代です。親身に、健全、健康な子供達を育成しなければいけません。

日本人の美意識や精神性を失ってはいけないと思います。学問と共に堀川高校が名実ともに一級の高校でありますように、私達同窓会の役割を問われることでしょう。まさに、新しい101年が、はじまりました。



同窓会会長
市田ひろみ
(高3回卒)



佐々木亮一氏（高15回卒）の指揮で吉村良之団長（高14回卒）率いる堀川マンドリン合奏団のウエルカム演奏が皆様を迎える。懐かしい曲目に、気がつけば同窓生の大合唱。最後の曲は「堀川同窓会歌」こみ上げる感動が歌声となって螺旋の回廊に響き渡り本会場へと誘っていた。



会場の明かりが落ちると能舞台が浮き上がった。百年を祝うにふさわしい開幕。演じるは、シテ味方謙元教諭。支える唄方は青木道喜氏（高21回卒）15分に及ぶ「高砂 八段の舞」演奏の磨かれた質の高さに会場は息を呑んだ。

百周年によせて

百周年記念の舞台に上げさせていただきありがとうございました。

百年といっても、私位の年の男が二人並べば、百年を超えるわけで、人により、長いとも短いとも取れる時間ですが、一つの学校が百年の間に送り出してきた人間の時間の集積を考えると、気が遠くなるようです。

堀川に関わられた先生方御一人御一人の、営々たる努力の積み重ねを思い、それほど良い生徒で無かったわが身を恥じながら、あらためて御恩に感謝いたします。

式典当日は、自然、「百年に届けよ」のような気分になり、一段と謡に気が入り、清々しい気持ちで「高砂や～」と謡うことができました。ありがとうございました。



観世流シテ方
青木 道喜
（高21回卒）

This is Horikawa 100th Part I

4/19 2008

堀川高等学校100周年記念の祭典が開幕した。

全て同窓会員による手作りの催事は、まさに、世界に誇れる「京都」らしく、また京都の中でも中心に位置する堀川が培った「文化の高さ」を惜しみなく発揮しえた祭典であった。

▶写真1

玄関に入る。エントランスを飾る20本もの青竹とバラのオブジェは、その空間の広さと高さを圧倒し、華麗で清々しく、堀川百年の歴史を心地よく迎えてくれた。

川瀬健一氏（高41回卒）花市提供

▶写真2

ホール入り口正面では、高女の皆様をお迎えし、お茶席の接待をさせていただいた。

この日の為に「春の川」と銘々された主菓子。

山口富蔵氏（高7回卒）末富提供

開演前のひととき、まさに春の堀川。高女の皆様は華やいでいました。

▶写真3 写真4

記念式典は百周年にふさわしく「高砂の舞」から始まった。市田ひろみ会長挨拶の後、門川大作京都市長（高21回卒）から祝辞をいただく。今年度2月堀川高校出身の市長が誕生。

祝辞の最後、この年、百歳を迎えられた米田貞一郎元校長先生の功績をたたえられた。

式典は「堀川賞」授与へと続く。（P8）

▶写真5

堀川高校「百年を振り返る」

百年間、堀川の教育に尽力下さった全ての先生方の名前が譲晴彦氏（高18回卒）によって読み上げられた。

名優ならではの技。先生方の名前はまるで台詞のように聞こえ、それは30分に及んだ。

感謝の拍手は高女の方々の席から始まり、現役生が座る舞台後部の席へと会場をウェーブのように移動していった。台本である名簿作成は三宅宗純元校長先生が一手に引き受けて下さった。大変な作業に改めて感謝申し上げます。

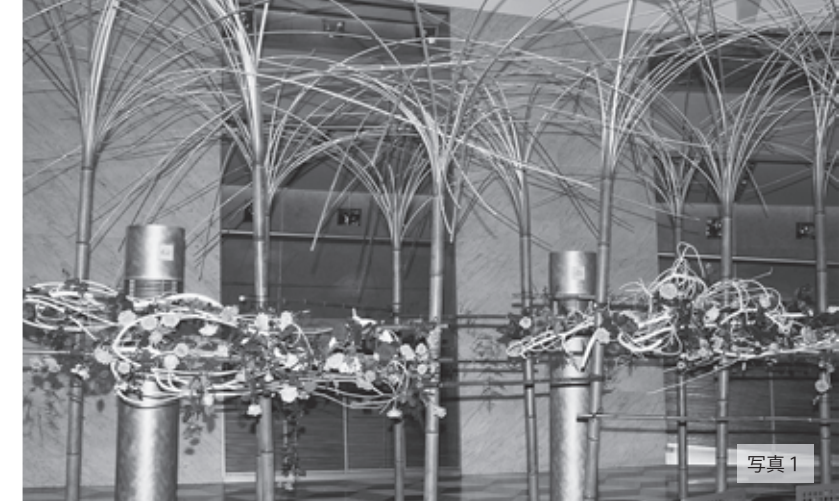


写真1



写真2



写真3

スポットに浮かぶ凛々しい米田先生の姿に感嘆と喜びの拍手が鳴り止まなかった。

写真4



写真5

This is Horikawa 100th 4/19 2008



最後の曲ラヴェルの「ダフニスとクロエ第2組曲」は、若き少年少女の間に芽生えた恋が描かれている。おそらく会場全ての人々は、堀川高校時代の恋をしていた自分に、再会できただろう。三部に分かれたテーマは、途切れること無く一筆書きのように綴られると、会場は音の帯に包まれ、高揚する感動が最高に達した。百周年記念コンサートは佐渡氏の言葉通り、美しく、華やかで、熱気に溢れ、同窓生をどこまでも魅了した。

100周年出演を終えて

今回の記念すべき100周年の式典で演奏できたことは大変な荣誉であり、また同時に堀川が日本を代表する諸先輩方を輩出する素晴らしい高校であることを実感致しました。式典では懐かしい先生方のお名前が読まれるたびに、遠い記憶を呼び戻し、いろいろなイタズラをしたこと、楽しかった学校行事などを思いだして一人でニヤニヤしてしまいました。

コンサートでは、小学校時代から一緒に勉強してきた大先輩、佐渡さんとの共演。素晴らしいオーケストラのサポートのもと楽しく演奏することが出来ました。特にサプライズで演奏した佐渡さんとのデュエットは一生忘れられない思い出になりました。

最後になりましたが、素晴らしい機会をくださった同窓会の方々、運営にご尽力いただいた事務局の皆様にお礼申し上げます。堀川高校の一員であることを誇りに思います。



吉岡アカリ
(音高33回卒)



Part II Memorial Concert

日本を代表する指揮者、佐渡裕氏（音高31回卒）とソリスト吉岡アカリ氏（音高33回卒）が入場すると、一気に会場は熱気を帯びた。

佐渡氏の堀音への思いはひとしおである。

「堀音が生んだ二人の分校生。美しく、華やかなコンサートにしたい」と、心地よい緊張の中、演奏が始まる。ハープとフルートに彩られたモーツァルト。そして佐渡氏の魅力溢れるトーク。予定外の吉岡アカリ氏とのフルートデュエット演奏。先輩のエンターテナー佐渡氏を後輩の吉岡氏が盛り上げる。

「この時だけの演奏」はサプライズ！格別だった。



Entrance

高女100名と、高校一期～高校四期卒、約200名が集う会場。
汗のひく間もなく佐渡さんは着替えをすませ会場に向かって下さった。
4人のそれぞれの楽しいご挨拶に大喝采がおこり、益々宴は盛り上がっていた。
周囲を取りまくテーブルごとに小さな同窓会がはじまり、終わりを惜しむかのように青春は続いていた。

Restaurant

堀川高女の方々が築いてこられた誇り高き自由と精神は、今なお衰えを知らない。
この精神は100年もの間、堀川の校風として受け継がれ、これからも脈々と受け継がれることだろう。
高女の皆様が集うレストランで、4人の方々は写真攻めにあい、小宴は盛り上がっていた。
高女の皆様、いつまでも、華やかで、お健やかに。

Foyer

ホワイエは演奏の感動と熱気で溢れかえっていた。4人の方々が到着するや、歓声が起こり、ここでも写真撮影会がはじまった。
桂都丸氏（高25回卒）も加わり、会場は歓喜一色に包まれる。
何故これほどまでに同窓生は一瞬にして仲良く、楽しく、時を過ごせるのか？不思議な感動を覚えた100周年だった。



This is Horikawa 100th PartⅢ

記念コンサートの感動を胸に、第三ステージに全員が移動。
市田ひろみ会長、譲晴彦氏、門川大作市長、佐渡裕氏が各会場を回る。
乾杯の音頭と共に100周年の祝賀小宴が始まった。

百周年の参加者は百歳を迎えられた米田貞一郎先生を筆頭に、高女からは18回卒の中堀史都子さんをはじめ約200名もの参加を頂き、堀音からは100名以上の参加があった。
ご来賓の皆様も全て堀川の元教諭と同窓生。招待された現役生300名を合わせて1,800席の会場は満席となった。
約4時間に及ぶ長時間の100周年事業であったが、最後まで会場は熱気に溢れていた。
現役生を交え世代を越えた同窓生の集いは次世代へ繋がる大事業として成功裏に終了。
全ての同窓生が「堀川」の名の下に集い祝い、感動が共有出来たことに深く感謝したい。

嬉しいことに、2010年に「堀音」（現京都音楽高等学校）も堀川の地に戻ってくる。場所は堀川御池である。
ぜひ、これを機に校名も戻して頂き「京都市立堀川音楽高等学校」とされますことを嘆願するものである。
堀川同窓会は共に「堀川」の名の下、姉妹校としてより深い交流と歴史を継続するため、嘆願書を提出することとなった。

■事務局より 101回 堀川同窓会・堀川賞授与式・小宴

日 時：2009年4月18日(土) 3時～ 場 所：京都国際ホテル

会 費：3,000円 20年度卒業生は招待

申 込：同封の案内状をご覧の上、電話・FAXにてお申込みください。

*締め切りは3月19日とさせていただきます。

2008年度 第一回 堀川賞受賞者

堀川賞 100周年を記念して設立。同窓会からその年度の卒業生を対象にエッセイを募集。優秀作品3部を荒瀬克美校長が選出。副賞金10万円。受賞エッセイはホームページに掲載しています。

斉藤 佳介



今回、私の駄文を堀川賞に選んでいただき光栄です。私は堀川で実に多くを学びました。堀川がなければ今の私はありません。そのような素晴らしい教育の機会を提供してくださった皆様に感謝！そして、この恵まれた環境で私が学ばせていただいたことを、このエッセイを通じて少しでもみなさんに還元できればと思います。

木村 紋子



受賞者のうち一人だけ受賞発表が遅れたらしい私。一緒に応募した友達から「受賞した！」と連絡がきてから一日、なんの音沙汰もなく落選したものと思っていたので、喜びもひとしおです。自分の中でぼんやり渦巻いていた、教育という単語への思いと向き合ういい機会になったと思います。本当にありがとうございました。

中野 優香



京都市立堀川高等女学校・堀川高等学校創立100周年記念、おめでとうございます。この度は、堀川賞という名誉ある賞をいただき、ありがとうございます。堀川高校での学校生活で、先生方、友人など多くの人に支えられながら、学び、身につけた「教育」の基盤を大切に、学ぶことへの積極的な姿勢を忘れずに夢にむかって勉学に励みたいと思います。本当にありがとうございました。

御礼 堀川100周年記念事業

救う会京都は、横田早紀江さん(高6回卒)の同窓生が中心となって事務局を構成しています。この度100周年の会場では、多くの同窓生の皆様から温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。寄付金118,500円、ブルーリボン50個(5,000円)奇しくも、来年は結成10年を迎えます。新たな決意を持って取り組んで参る所存です。どうか同窓生の皆様、今後ともご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



救う会京都連絡先：中村喜代治(高6回卒) TEL・FAX 0774-22-7076

平成22年版同窓会会員名簿発行(平成22年3月予定)についてのお知らせ



5年毎に改訂発行している「同窓会会員名簿」の改訂時期となりました。

本年6月ごろに会員の皆様方の正確な情報を名簿に反映させるため、「会員名簿作成用調査はがき」をお送りします。記載内容をよくお確かめの上、ご返信くださるようお願いいたします。また、名簿予約等にもご協力くださいますようお願い申し上げます。

前回同様、名簿作成の専門業者(株)サラトに調査・編集・印刷・発行までの全ての作業を全面的に委託しております。今後、郵送物でのご案内やお電話等でのお問い合わせがあるかもしれませんが、会員の皆様にご迷惑のかかることの無いよう、慎重に進める所存ですので、何卒、趣意をご理解頂き、ご協力頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆発行予定 平成22年3月

◆名簿頒価 5,000円(送料・消費税込)

◆収録者 恩師を含めて、創立から現在までの同窓生約36,000名

同窓会、クラブ等の情報のお知らせは右記まで御願いたします。 FAX:075-211-1526 堀川同窓会宛

発行 京都市立堀川高等学校堀川同窓会 京都市中京区東堀川通錦小路上がる〒604-8254 <http://www.horikawa-dousoukai.com> FAX:075-211-1526
デザイン・印刷 株式会社サラト 兵庫県姫路市北条宮の町172〒670-0948 TEL:079-284-1380 FAX:079-224-7746